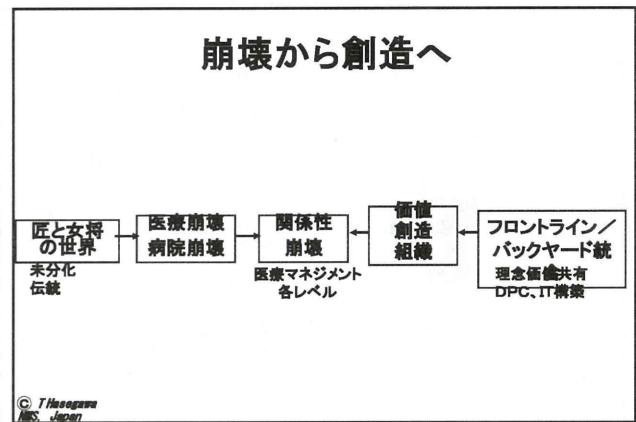
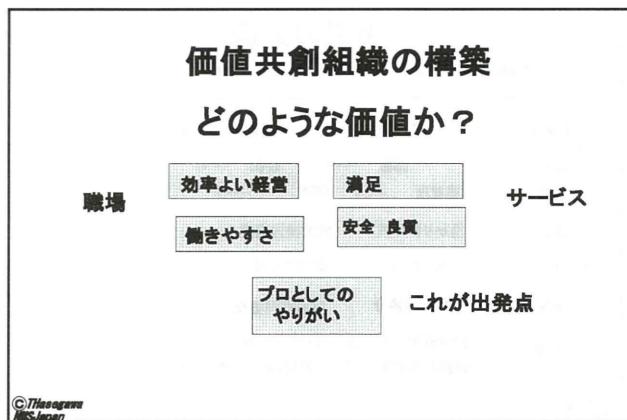


この20年におきた大変化と展望		関係性 きしみ ねじれ 断絶	信頼のチーム
社会対医療界	頼り (信頼・尊敬)	×	相互理解
施設対施設	自己完結 (未分化)	×	各施設機能分化 分担と連携
職種対職種	匠を支える (一方的)	×	分化分担チーム化 再構築
師長対病棟職	病棟お母さん (総合機能)	×	多職種チーム 分担と連携
医師対他医師	幅広な専門分化 (そのくせ未分化)	×	能力ある専門化 分担と連携
患者対医療者	おまかせ (信頼)	×	説明と納得 チームの一員

© T. Hasagawa  
NHS, Japan

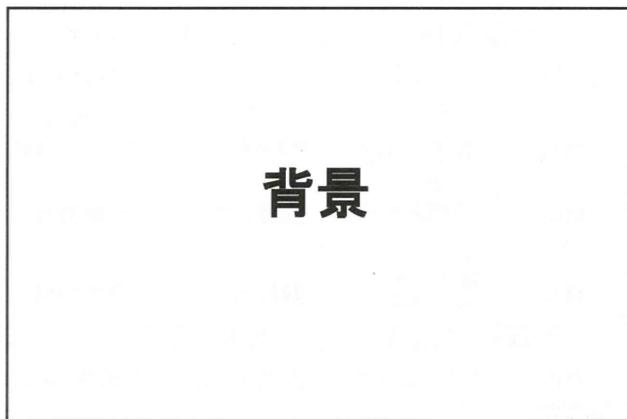


© T. Hasagawa  
NHS, Japan

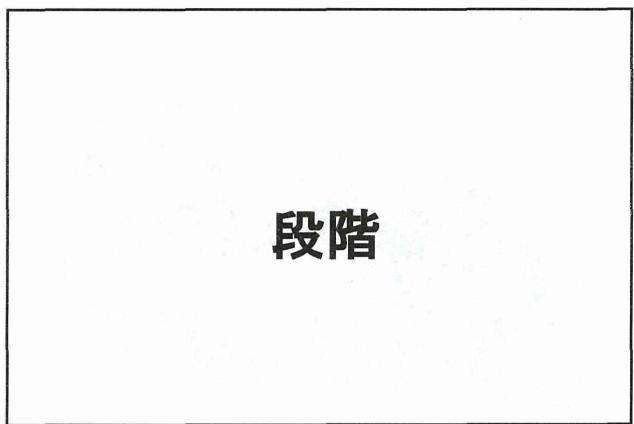
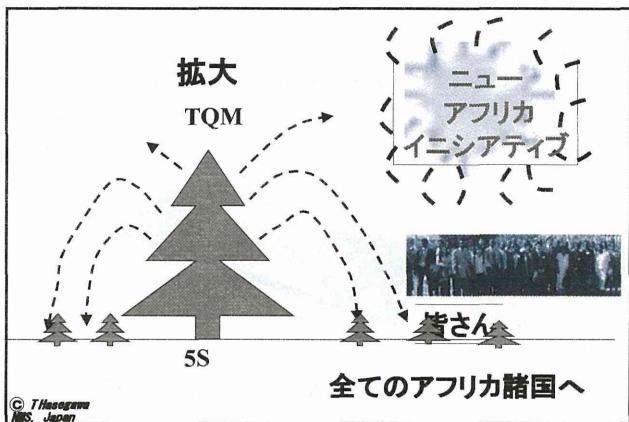
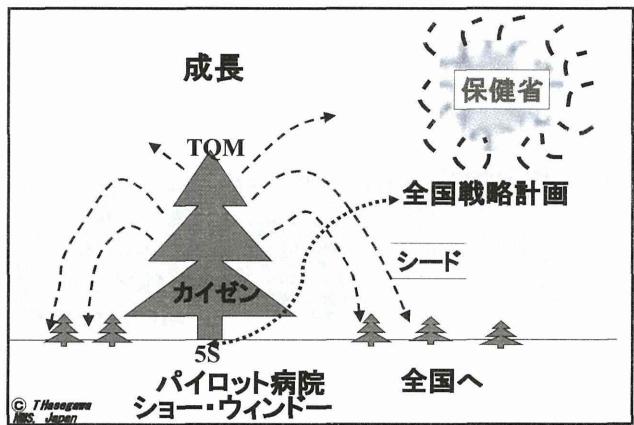
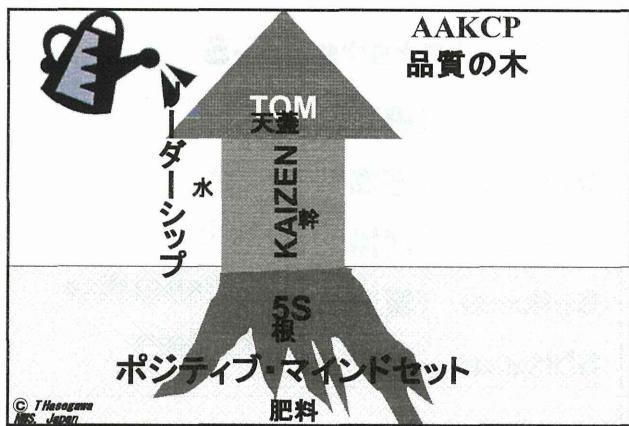
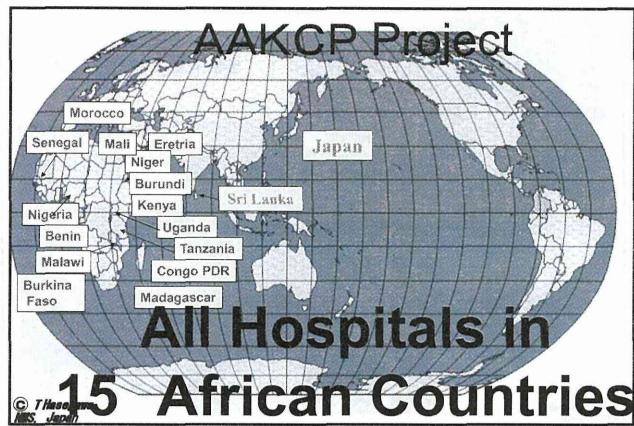


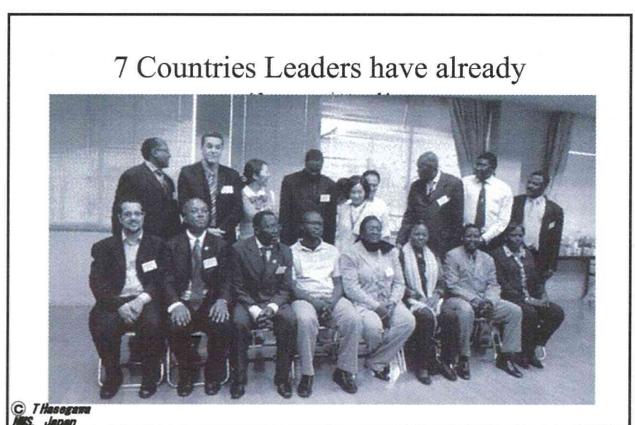
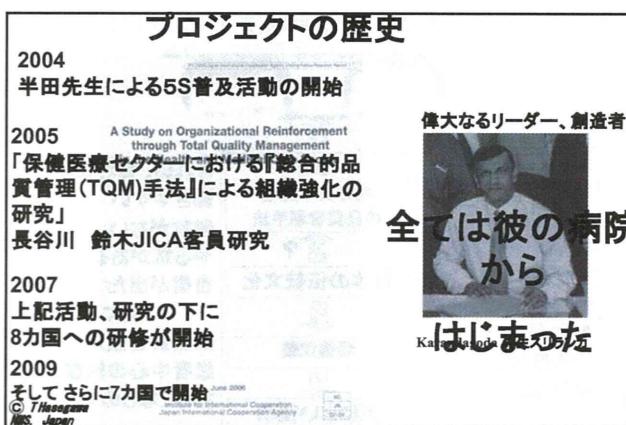
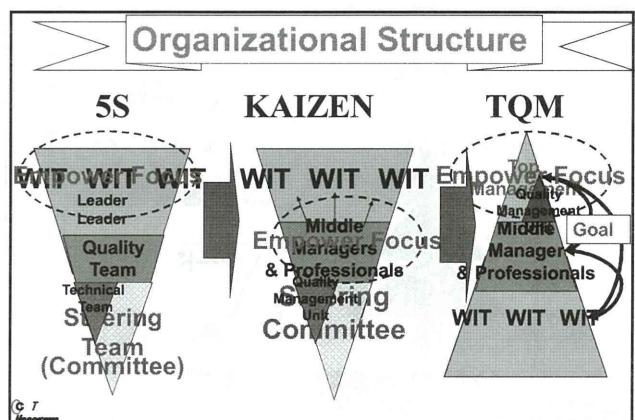
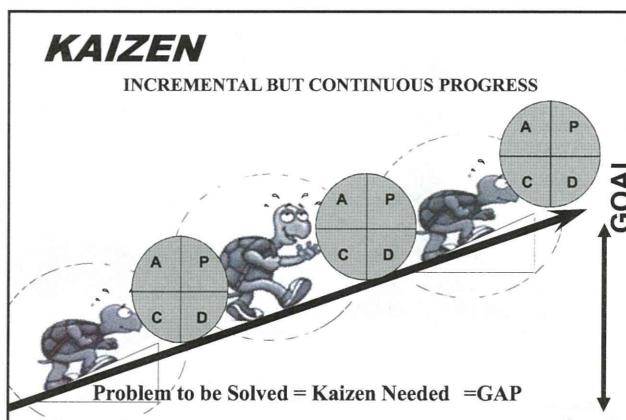
© T. Hasagawa  
NHS, Japan

## 第3の糸



© T. Hasagawa  
NHS, Japan





## 展望

### 当初とても信じられなかつた無謀なプロジェクトの 成功の理由

1. 自分たちの為（入り口は患者の為じゃない）  
労働環境、効率の改善 働きやすい！
2. 目に見える改善  
5Sの具体性、ショウウンドウ、見えやすさ！
3. スリランカの成功例  
途上国で応用と実践、より身近な成功！
4. 其処にある資源使用  
廃品を応用、ダンボールで自分で作る、安上がり！
5. 実現への自信  
職員参加で実現、ポジティブシンキング！
6. 情報の交換  
目標管理会議、見える化で参考例の共有、競争心をあおる！

### 意識と チーム

## 茶 “CHA” TEA コミュニケーション ホスピタリティ 全世界的な協会

- ・珈琲セレモニー  
エリトリア、エチオピア、モロッコ、スーザン
- ・歓迎の茶会  
多くのアラビア諸国



© T. Nagasawa  
M.S. Japan

京都でお茶の練習をするアフリカ人参加者



© T. Nagasawa  
M.S. Japan

千利休による16世紀に確立された



Culture of Japan  
日本の文化

茶の湯

「Chanooyu」  
Tea Ceremony

Ceremonie Du Thé

© T. Nagasawa  
M.S. Japan

おもてなし

ニコロ  
Esprit

「Omotenashi」  
Co creation with Host & Customer

5S

かたち  
Form

「Go-esu」  
簡素、清潔、効率的、合理的

## 総括

# 概念整理

CSってなんなの？

Customer Satisfaction の略 CS  
顧客満足と訳します。稀に消費者満足とも訳します。

PSって聞くけど？

Patient Satisfaction を略してPS  
患者満足と訳し顧客が患者の場合です。

この言葉は経営ではありません。

Quality 医療の質とどう違うの？

違いません。いくつかある医療の質の捉え方の一つです。

どんな捉え方があるの？

大きく分けて医学的に見た質と経営的に見た質とがあります。

どちらがCSなの？

医学的な結果ではなく顧客が感じたものです。

では主観点になるよね？

そうです。医学的な質は客観的に捉えるのですが、顧客満足はそれぞれの顧客に聴いてみなければわかりません。

ESって聞くけど？

Employee Satisfaction の略 ESです。  
職員満足あるいは職務満足雇用者と訳します。

ESとCSってどんな関係？

ES職員の満足とCS顧客の満足とは強い関係があるといわれています。  
ESはCSの一部という考え方もあります。

えっ、何でESがCSなの？

経営では顧客には外部顧客と内部顧客の2つの顧客があると考える人がいます。外部顧客が普通に考える顧客で内部顧客が職員というわけです。職員は外部顧客にサービスを提供する目的のため互いにサービスを提供し合っているので顧客同士と考えるわけです。

うーん、互いを顧客として尊重すべきというわけ?

そうです。そう考えると職員はチームとなって互いに助け合うことになるでしょう。

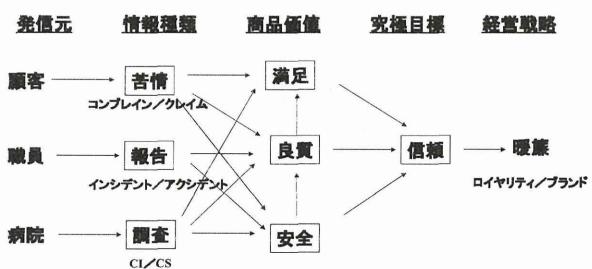
でも私は医療界ではESや内部顧客のCSという考え方よりもPS Professional Satisfaction 専門職満足、つまり「やりがい」大切と考えています。

えー、またPSが出てきた。  
もう一つPSって聞いたことがある。

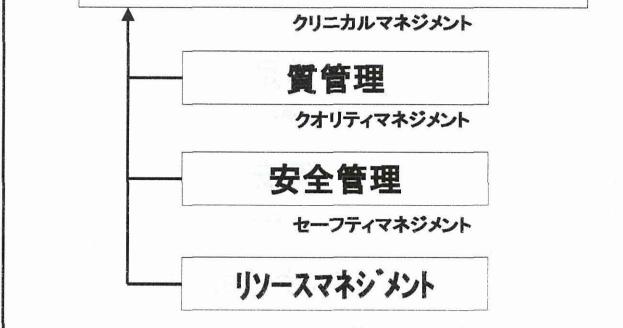
そうです。さきほどの医療には質Quality ともう一つ重要な安全Safetyがあります。

顧客も専門家より良い医療を求め目指すべきですが、その前にまず安全、事故がない事が重要です。

### 3つの情報源と3つの価値そして究極の目標



### 臨床マネジメント(管理or経営)



### 過ぎた革命

### の必要性

1975 2000

要素技術  
技術革新

医療高騰

医療の関心

第一次  
費用対効果高

第二次  
診断中心

第三次  
成熟化

これから

医療革命

第三次  
抑制期

第一期  
拡張期

第二期  
抑制期

医療制度

第三次  
説明責任期

社会保障充実

医療計画

制度改革

制度改革

### 医療の3つの革命

Arnold S.Relman, ニューアーランド医学誌 1988



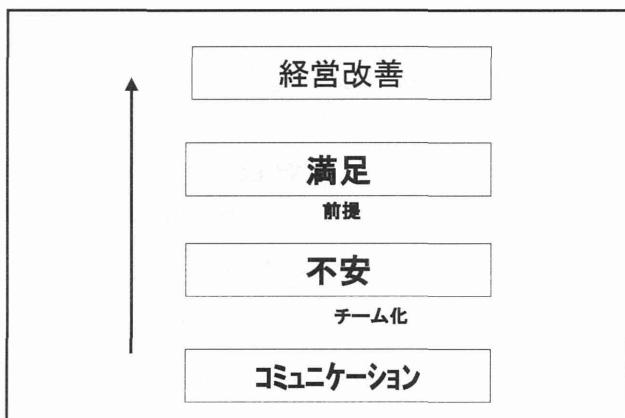
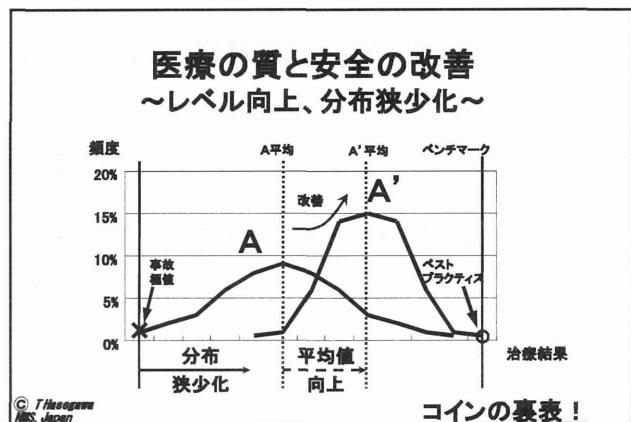
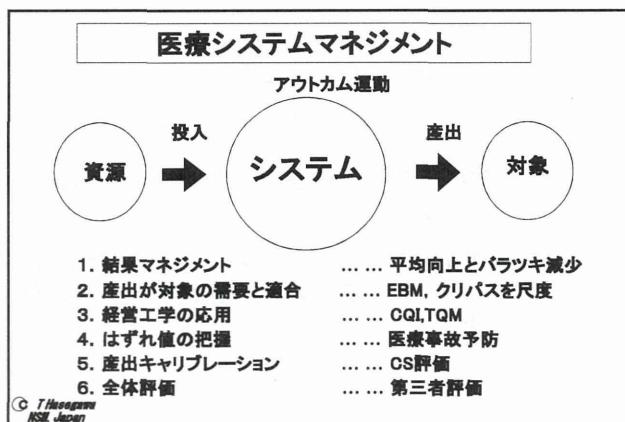
1960 第1次医療革命 拡張の時代  
病院急増、医師増加、医療の技術革新  
医療保険カバー拡大

1970 第2次医療革命 医療費の抑制時代  
政府雇用主支払い拒否  
医療費急増は国民総生産 4%から 11%

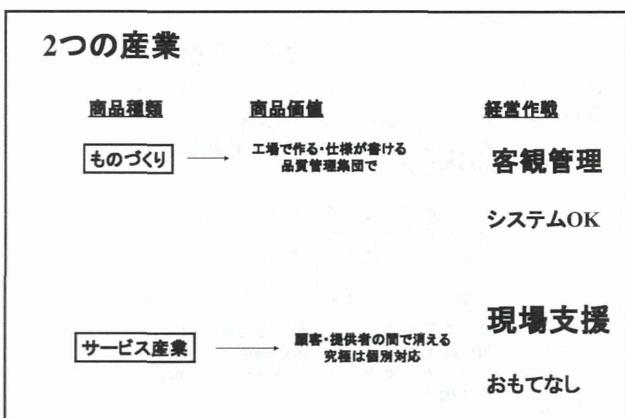
マネジドケア、前支払い制度  
総額予算制、医療計画による規制、技術評価

1980 第3次医療革命 評価と説明責任の時代  
OutCome (Management) Movement  
公平、満足できる質、適合性、適正価格、安全性

を目指す

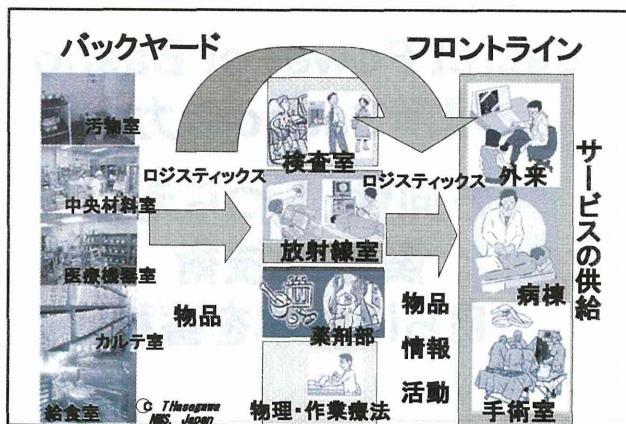


**提案**



**病院経営の構造**

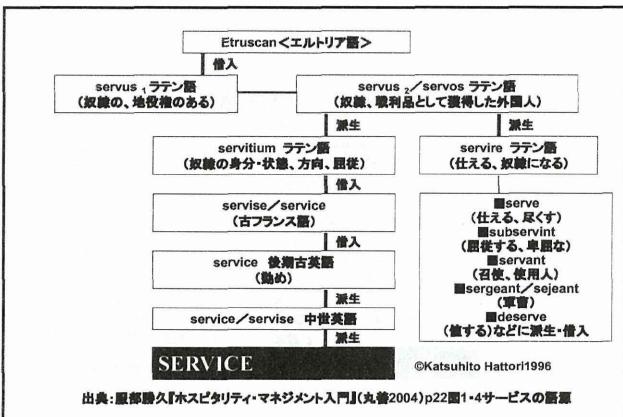
	フロントライン	パックヤード	リンク
<b>主体</b>	技術系(主)	事務系(主)	経営系(主)
<b>重点</b>	新しい	古い	重い
<b>対象</b>	結果	資源	基盤
	CS & ES(相互) Quality & Safety	人(獲得、育成) 物(ロジ) 金(収入、資本) 情報	意識 組織 知識
<b>手法</b>	Value Cocreation Team化 共に学び育つ組織	定量化・知識化 分析・見える化 JIT	使命(Mission Management) 計画(経営戦略、プランディング) 5S/KAIZEN/TQM (変革マネジメント場所マネジメント)



# 終わりに

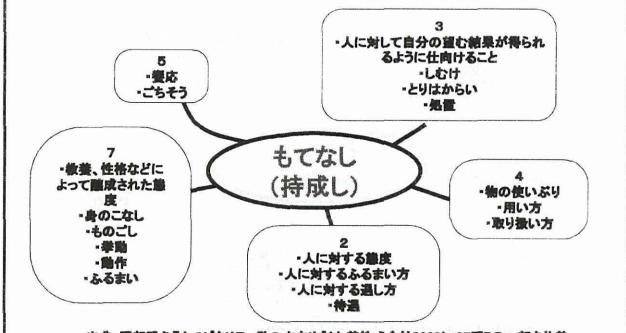
## おすすめ

- みんなで確認共有「CSの重要性」!  
これからは質管理に必須のツール
- CSだけでなくPS(やりがいES)あわせて実施!  
もともと内部顧客の職員、職員のやりがいでCSがあがる。  
医療崩壊、病院崩壊からの再建
- CSは測るツールよりむしろコミュニケーションのメディア!  
病院が客観的に自分の姿を振り返ること必要。  
でも患者さんからのメッセージ受けとめる事もっと必要  
病院と患者の愛の交換日記
- 新しい商品パッケージを使おう!  
なるべく簡単に、測ることが目的ではなく使うこと、  
自分の姿を見る鏡、  
患者さんとの話し合いのフォーラム



出典: 服部勝久『ホスピタリティ・マネジメント入門』(丸善2004)p22図1-4サービスの語源

## 『もてなし』の関連派生語



出典: 服部勝久『ホスピタリティ学のすすめ』(丸善株式会社2008)p87図7の一部を抜粋

# Secret Power of Basho

## 場所Bashoの力

### 方向性、しつらえ、 関係性技術 自らに資本を蓄積

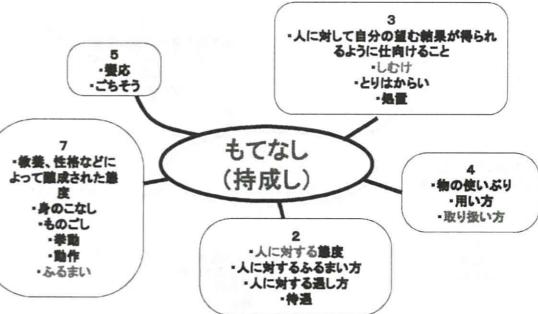


### Hospitalityの成り立ち

- \*ghos-ti(印歐祖語PIE) → hostis(ラテン語)  
:「客」、「旅人」、「異邦人」  
(→guest(現代英語))
- ↓
- \*ghos-ti + \* poti(印歐祖語PIE) → hospes(ラテン語)  
:「客をもてなす主人」(→host(現代英語))
- ↓
- hospitalis(ラテン語):「交通機関や宿泊施設が整備されていない時代に、危険と隣り合わせで巡礼する異邦人を歓待すること」  
(→hospitality)

出典:p12、サービス＆ホスピタリティ・マネジメント研究グループ著  
『サービス＆ホスピタリティ・マネジメント』産業能率大学出版部2011.3.31

### 『もてなし』の関連派生語



出典: 服部勝久『ホスピタリティ学のすすめ』(丸善株式会社2008)p87図7の一部を抜粋

### Etruscan <エルトリア語>



出典: 服部勝久『ホスピタリティ・マネジメント入門』(丸善2004)p22図1・4サービスの語源  
©Katsuhito Hattori1996

## チームとは（長谷川の7要素）

- 目的の共有 まず気づき！
- メンバーの確認
- 役割の分担
- 良いコミュニケーション（情報の共有）  
結果の共有  
信頼  
リーダーシップ
- （意外と忘れる）  
（チームの特徴）  
（必要条件）

© T. Hasegawa  
HSS Japan

## 哲学の道



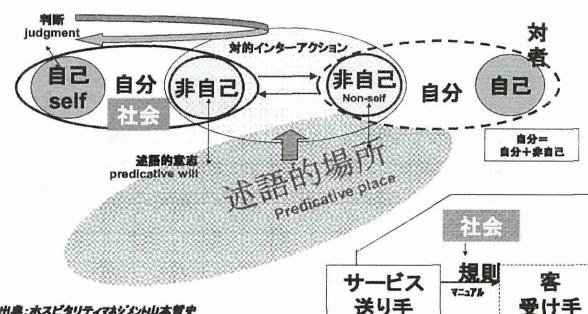
西田幾太郎

## 場所の哲学

単なる空間ではなく、歴史性、環境身体相互反応性、無定形エネルギーに満ちた時空間

## ホスピタリティの自己技術構造

自己の自己に対する関係において、非自己が他の非自己と働きあう自己技術の対的インターアクションの述語的アクティビティがホスピタリティである。



出典：ホスピタリティマネジメント山本留史

## ホスピタリティ マネジメント



日本の伝統に  
サービスの本質を探る

## 新しい経営 (New Management)

	旧	新
基本	製造業モデル	ホスピタリティ産業モデル
目的	利潤最大化	価値共有共創
変革	目標とインセンティブ	体験とチーム化
成長	規格化	組織学習
隠喩	機械	生物
精神	効率化	おもてなし

主客ともに満足

## 新たな社会への準備期間 もう殆ど無し

